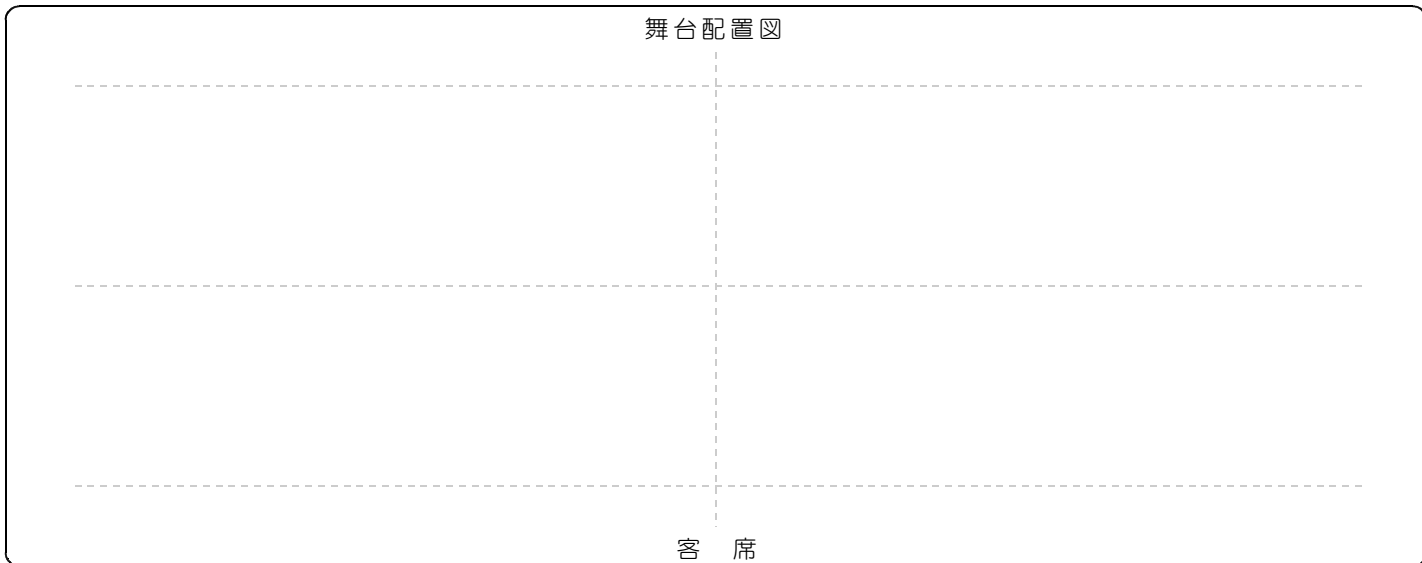


No.	物は尽くし	演奏者数	演奏時間
-----	-------	------	------

舞台配置図



客席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ モニター	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44		編成：三絃								17絃						
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	1	2	3	4	5	6	7
17絃	D	D#	F#	G	G#	A	A#	C	C#	D°	D#°	F#	G°	G#	A	A#	B°
	7のハーモニックス (Fg) 1/3 その他 1/4を即興で多用																
三絃	D		G		D		本調子										

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

作曲年 1988年 委嘱者 中野幹子 構成 十七弦・三弦・唄 時間 13分 出版楽譜 無し
 解説 歌詞を梁塵秘抄より選び、題名の「物は尽くし」は、心の澄むものは、何々…、という物は尽くしの形式
 によっている。全体は古典風な三弦の弾き唄いを軸に、十七弦が現代的な奏法でそれを支える。そして一唄ご
 の後では十七弦のインプロヴィゼーションの誘導に感応しながら三弦が音の選びを展開する。解放された遊び心
 をふんだんに取り入れ、インプロヴィゼーションのスリルと緊張を味わおうという意図を持たせた作品。1988年
 11月作曲。[作曲者] 心の澄むものは 秋の山田の庵毎に 鹿驚かすてふ 引板の声 衣して打つ槌の音
 常に恋するは 空には織姫流星 野辺には山鳥 秋は鹿 流れの君達冬は鴛鴦 梁塵秘抄より
 収録媒体 沢井忠夫 三弦の軌跡 (COCJ-31121/2)